



令和3年度 社会科授業づくり講座レポート (南国市立鳶ヶ池中学校)

発行
令和3年12月
中部教育事務所



単元 第1学年 世界の諸地域 北アメリカ州 授業者 細川泰世 教諭

単元の目標 北アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

本単元終了時の目指す生徒の具体の姿

- ・アメリカ合衆国が、SDGs達成度の低い部分がある理由を、ここまで学んだ内容を活用しながら説明できている姿。
- ・アメリカ合衆国の現状を日本と比較したり、SDGs達成に向けて大切な考え方を記述したりしている姿。



【教科主任】
森田聡一 教諭

10月13日(水)
教材研究会

【協議の視点】単元を貫く問いと各時間の問いとのつながりについて ～生徒が見方・考え方を働かせる問いになっているか～

<研究協議より>

- ◇単元を貫く課題を、生徒と共に考えていく時間が設定されているところが良い。
- ◇SDGs達成のために必要なことを考えるという課題は、生徒たちにとって自分事として考えられないのではないか。
- ◇「アメリカ合衆国のSDGs達成率向上のために、あなたが提案できることを、根拠とともに示そう」など、生徒が主体的に発信を行える課題にしてはどうか。
- ◇第6次の内容を第5次に入れて、第6次にアメリカが取り組むべきことを考えさせると、達成率が低い理由を調べるだけでなく、調べたことを活用してさらに深く考えられるのではないか。

【単元を貫く課題】アメリカ合衆国のSDGs達成のために、今、必要とされていることは何だろうか？

<p><課題把握> アメリカが世界に与えている影響力の大きさに気づき、その要因を追究しようと意欲を持つ。</p>	<p><課題追究> アメリカが世界に与えている影響力の大きさに気づき、その要因を追究しようと意欲を持つ。</p>	<p><課題解決> アメリカ合衆国における課題について、SDGs達成率をもとに既習事項を活用しながら表現する。</p>		
<p>見方・考え方を働かせる生徒の姿</p> <p><位置や分布、場所> ・アメリカ合衆国は日本をはじめ諸外国に影響を与えていることを実感したうえで、世界で取り組んでいるSDGs達成率を知り、なぜそうなったのかという疑問を持ち、意欲的に調べ学習に向かおうとする姿。</p>	<p><人間と自然環境との相互依存関係 空間的相互依存作用 場所 位置や分布> ・アメリカ合衆国の地域的特色について、規模の大きさや技術の進歩などを理解し、SDGs達成率の低い項目に着目しながら原因を追究し調べようとしている姿。 ・発表内容に説得力を持たせる資料を選び、課題解決に向けて、聴いている側に伝わるようなまとめ方をしようとしている姿。</p>	<p><地域> ・アメリカ合衆国が、SDGs達成率の低い部分がある理由を、ここまで学んだ内容を活用しながら説明できている姿。 ・アメリカ合衆国の現状を日本と比較しSDGs達成に向けて大切な考え方を振り返りとして記述している姿。</p>		
<p>各時間の問い</p> <p>第1次 北アメリカ州に暮らす人々の生活を、資料をもとに考えよう。</p>	<p>第2次 アメリカ合衆国は世界にどのような影響を与えているだろう。</p>	<p>第3次・4次 なぜアメリカ合衆国は世界に大きな影響力を与えることができるのだろう。</p>	<p>第5次 他の班の発表の内容を活用して、項目を選び、達成率の低い理由を考えよう。</p>	<p>第6次 アメリカ合衆国のSDGs達成のために、今、必要とされていることは何だろうか？</p>

《教材研究会を受けて》

- ◇アメリカのSDGs達成のための直接の解決策を考えるのではなく、達成に向けての課題を、地理的な視点で説明できるようにすることをゴールとする。
- ◇生徒がより主体的に課題に迫ることができるように、単元の導入時に、アメリカにおけるSDGsの課題を、生徒に選択させるようにする。

11月10日(水)
授業研究会

【協議の視点】単元を貫く問いと各時間の問いとのつながりについて ～生徒が見方・考え方を働かせる問いになっているか～



<研究協議より>

- ◇単元を貫く課題にSDGsの視点を用いることによって、地球的課題についての要因や影響を、北アメリカ州を題材に考えることができていた。
- ◇地域の特色や歴史的な背景をもとに、生徒はSDGsの達成率が低い理由について探究できていた。
- ◇問いの中に、日本とのつながりについて考えられるものを入れられれば、生徒が自分たちの生活との関わりについて深く考えられたのではないか。
- ◇説明するというところがゴールであるならば、発表内容に根拠が不足していたのではないか。

【単元を貫く課題】アメリカ合衆国のSDGs達成に向けての課題を見つけよう。

<p>各時間の問い</p> <p>第1次 北アメリカ州に暮らす人々の生活を、資料をもとに考えよう。</p>	<p>第2次 アメリカ合衆国は、なぜ経済力で世界1位になることができたのだろう。</p>	<p>第3次 選んだテーマにそってアメリカ合衆国の特色を調べよう。</p>	<p>第4次 選んだテーマにそってアメリカ合衆国の特色を調べよう。</p>	<p>第5次 他の班の発表の内容を活用して、項目を一つ選び、達成率の低い理由を考えよう。</p>	<p>第6次 「アメリカ合衆国のSDGs達成度が予想よりも低い理由」について、産業・工業・歴史などに着目し発表しよう。</p>
--	--	---	---	--	---

本時の展開

単元を貫く課題と、3つのSDGsの項目の問題点、本時のめあてを確認。

タブレットを用い、班内で理由とともに意見交換をする。ホワイトボードにまとめる。

タブレットを用い、班内で理由とともに意見交換をする。ホワイトボードにまとめる。

各班の意見を参考に、SDGs達成に向けての課題を整理して、個人でまとめる。

◇SDGsの教材化の視点

- ・解決策を考えさせても、常識的なものにとどまるか、特定の行動の強要にとどまる傾向にあるので、重要なのは、目標を達成できていない現状について考察させることではないだろうか。
- ◇「指導と評価の一体化」の取組について
 - ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点を見取るためには『振り返り』と『見通し』の場面を設定することが重要である。
 - ・態度の育成のためには、「社会の授業の中で、できるようになったことはあるが、さらにここを改善した方がいい」というところを明確にフィードバックする機会を持つことが重要である。
 - ・生徒に「振り返り」を書かせて終わりにするのではなく、次の学習につなげるための問いを投げかけて、さらに生徒たちがどのように資料を活用したのかを評価していくなどのフィードバックが考えられる。



【講師講話】
愛媛大学教育学部
井上昌善 准教授

【授業者】細川 泰世 教諭



- ◇「振り返りから、さらに次の問いに」を今後の自分の課題としていく。
- ◇限られた時間の中で、課題解決学習を仕組んでいくためには、見通しを持って計画的に進めていかなければならないと痛感した。
- ◇講座での学びを取り入れ、子どもたちが楽しかったと思える授業をしたい。

【リフレクションシートより】

- ◇教師側のフィードバックがあると、それを超えようと生徒も頑張り、積極性が増すと思いました。
- ◇課題解決のために必要な「課題把握」の時間を十分にとることが大切だと気付かされました。
- ◇地理的分野でのSDGsの扱い方についてとても参考になりました。